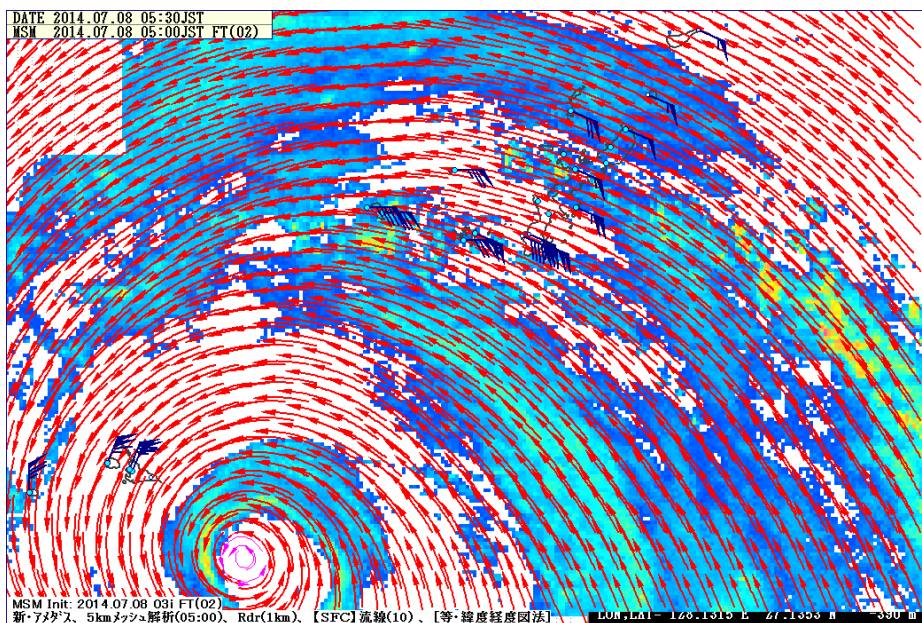


<空間断面図で、立体構造を把握。雲頂はどこまで上がるかな>

大気の状態が不安定な時…など、じゃあその不安定現象に何が考えられるか、雲頂はどこまで上がりそうなのか？立体的に構造を把握することで、予想のイメージが膨らみます。

①台風第8号周辺の空間断面図を試しに見てみます。台風の中心から沖縄付近を指定してみます。



②NM をクリックすると、断面を見たい区間を黒実線で指定することができます。指定すると小窓が出て来て、大圏距離がわかります。と、同時に「空間断面図」を別で表示することができます。

The screenshot shows the APLA 2006 software interface. The main window displays the spatial cross-section diagram from the previous image. A red circle highlights the 'NM' button in the top toolbar. A black solid line is drawn across the diagram, indicating a selected cross-section. A dialog box titled '大圏距離 & 断面図' (Great Circle Distance & Cross-section) is open, showing a distance of 199 NM (369 km) and asking if the user wants to display the spatial cross-section in a separate window. The dialog box has buttons for 'はい(Y)' (Yes), 'いいえ(N)' (No), and 'キャンセル' (Cancel).

ここをクリックして、断面を見たい区間に線を引きます

この黒実線部分の断面図を見たい！
ということで、指定しました

実線を引くと、このような小窓が出てきて、大圏距離がわかります。それと同時に、「空間断面図」を出しますか？と聞かれます。「はい」と答えます。

大圏距離 199 NM 【369 km】

この空間断面図 (RSM-GPV) を別のウィンドウに表示しますか？

はい(Y) いいえ(N) キャンセル

③指定した、台風中心の北東側にあたる空間断面図はこんな感じ。緑色のモクモクは湿度が88%以上の領域で、概ね雲がある領域が表現されています。雲頂は250hPa付近まで達しています。また、高度700hPa付近に乾燥域が…。雲がそんなに分厚くないということでしょうか。また、風速分布は中心から100海里ぐらい離れた、高度800~700hPaぐらいに現れています。台風の眼がデカイということでしょうか。(黄土色の等値線は、風速の等値線)

